

さいたま市長10月定例記者会見

平成26年10月23日(木曜日)

午後1時30分開会

- 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社の読売新聞さん、進行よろしく願いいたします。
- 読売新聞 10月の幹事社を務めております読売新聞社と申します。よろしくお願いいたします。
それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長から説明をお願いいたします。
- 市 長 皆さん、こんにちは。爽やかな秋晴れの続くこの時期に、皆様にこのようなお知らせをしなければならないことが残念でなりません。
去る10月4日に、官製談合防止法の違反容疑などで市職員が逮捕され、昨日、さいたま地方裁判所に起訴されました。この件で、市民の皆様の市政に対する信頼を大きく損ないましたことに対しまして、まことに申しわけなく、心よりおわびを申し上げたいと思います。
今後は、公判及び捜査に全面協力するとともに、事実関係を確認の上、厳正に対処してまいります。
市といたしましても、今回の件を受けて、施設修繕の履行確認の内部調査を行うことといたしました。加えて、改めて全職員の綱紀粛正を徹底し、市民の皆様の市政に対する信頼回復に全力で取り組んでまいり所存でございます。
どうか市民の皆様にはお変わりなく、今週末のさいたまクリテリウムを初めとした市内各地で行われる多彩なイベントに、ご家族そろって遊びに来ていただき、秋を満喫していただきたいと思っております。
それでは、本日の議題に入らせていただきます。

市長発表：議題「姉妹都市提携35周年記念事業メキシコ合衆国・トルーカ市訪問について」

本日の議題、「姉妹都市提携35周年記念、メキシコ合衆国・トルーカ市

訪問について」ご説明をさせていただきます。

まず、日程につきましては10月26日日曜日から、11月1日土曜日までの7日間ということになります。訪問先は、姉妹都市でありますメキシコ合衆国のトルーカ市でございます。訪問者は、私を含めまして職員が4名、そして市議会議員団の訪問団が4名、そして市民訪問団の皆さんの訪問団が15名、合計合わせまして23名でトルーカ市を訪問し、公式行事などに参加をさせていただく予定でございます。

それでは、トルーカ市の場所でございます。トルーカ市は中米に位置しますメキシコ合衆国のメキシコ州の州都でございます。メキシコ第5の都市で人口は約82万人、面積は約420平方キロメートル、市内には州政府庁舎を初め裁判所、考古学博物館、州立自治大学、動物園などがあり、同州の中心都市となっております。海拔2,680メートルの高原都市で、気候は温暖であると伺っております。

今回の訪問の目的でございますが、今年で姉妹都市提携35周年を迎えるトルーカ市を周年記念事業として訪問し、交流事業に参加することで、トルーカ市との交流を深め友好親善を図るものでございます。

また、今後の交流に係る意見交換を行い、覚書を取り交わすほか、さいたま市における世界盆栽大会の開催や、本市の伝統産業を初めとする、さいたま市の活動や魅力等、最近の動向をトルーカ市の皆さんに積極的にPRをしてまいりたいと考えております。

次に、旧浦和市より続いておりますトルーカ市との交流についてご説明をさせていただきたいと思っております。まず、経緯でございますけれども、この交流のきっかけとなりましたのは、埼玉県とメキシコ州の姉妹提携の検討が行われたことからでございます。両市とも首都圏に位置し、文化、教育、経済、環境など類似点が多いことから、当時の駐日メキシコ大使より、州都と県都の姉妹都市提携の提案がございました。その後、両市の友好関係が深まり、埼玉県とメキシコ州の姉妹州県提携と同時期の1979年、昭和54年に旧浦和市とトルーカ市の姉妹都市提携が実現したものでございます。

これまでの主な交流実績につきましては、市民レベルの交流として、市民訪問団や各分野の訪問団の相互訪問を行っており、旧浦和市を含めると

過去12回の訪問団派遣を実施してまいりました。また、教育・スポーツの分野の交流として、スポーツ少年団、サッカーの相互派遣事業を行っており、過去15回の派遣を通じまして、市内の多くの子供たちがトルーカ市を訪問いたしております。姉妹都市提携の交流事業としては、5年ごとに記念訪問団の派遣を行っておりますが、こうした周年記念の訪問を通じて、新たな提携の強化や分野ごとの見直しを図るなど、互いに実りの多い交流を目指して協議する機会といたしております。

今回の訪問では、トルーカ市長と両市の交流強化に向けた意見交換を行ってまいりつものでございますが、意見交換の概要としてはこういったものがございます。まず第1が、トルーカ市におきましてトルーカ市さいたま友好協会の設立についてということ、また職員の相互交流派遣検討についてということ、あるいは環境教育の情報提供についてということ、また両市の提携による経済協力ということについて、また語学学習機会の提供・支援について、観光イベントの情報交換・周知について、またサッカー少年団の選手育成に係る取り組みの強化についてなど、意見交換をしてまいりまして、合意内容に基づいて覚書を取り交わしてまいりたいと考えております。

主な行事の日程についてご説明をさせていただきます。10月26日に成田を飛び立ちまして、メキシコシティ、トルーカ市へ向かいます。27日の午前、トルーカ市長及びトルーカ市議会を表敬訪問し、午後には今後の姉妹都市提携の強化に係る意見交換会を開催をさせていただく予定であります。また、28日にはメキシコ文化センターほか、トルーカ市内の視察のほか、各訪問団とトルーカ市関係者を交えた交流会に出席をさせていただきます。また、29日には姉妹都市覚書の調印式、また市長主催のレセプションに出席した後に、トルーカ市内の浦和公園におきまして、記念プレートの設置式に出席いたします。30日午前中にトルーカ市を出発しまして、メキシコシティに移動して、飛行機までの時間に国立人類学博物館の視察などを行って、同日の夜にメキシコシティを出発して、11月1日の早朝に成田に到着予定でございます。

今回の訪問では、トルーカ市との提携の強化を目指した意見交換を行うなど、市民交流を中心とした友好親善をさらに深め、両市にとって、より

実りの多い交流へと発展させる重要な契機としていきたいと考えております。

私からの説明は以上でございます。

議題に関する質問

- 読売新聞 それでは、幹事社のほうから質問させていただきたいと思っております。2点でございます。
1点は、費用の総額を教えてください。
それからもう一点は、今回訪問団の、市民訪問団の方々なんですが、どのような方々が実際に15名足を運ばれるのでしょうか、その2点についてよろしくお願ひします。
- 市長 それでは、担当のほうからご説明させていただきます。
- 事務局 国際課でございます。
費用の総額でございますが、市長訪問団、市長及び3名職員含めまして合計で248万3,352円でございます。
そして、市民訪問団でございますが、一般の市民からの公募、応募された15名の方を市民訪問団としてトルーカ市のほうに派遣してまいります。
以上でございます。
- 読売新聞 済みません、今に関連してなんですけれども、その公募というのは、どういった方々を選考されたということなんでしょうか。
- 事務局 一応市内在住の方ということで、6月の時点で公募をいたしまして、ちょうど15名が決まったところで公募を決定したということになっております。
- 読売新聞 関連してなんですけれども、それは例えば在住者以外に、例えば何か書面のようなもので申請したりですとか、あるいは条件ですとか、そういった形で公募されているんですか、何か目的ありきでその対象者を限っているのでしょうか。
- 事務局 特に目的というものはございませんで、市内の在住の方ということに限って応募させていただいております。
- 読売新聞 費用は、市民の方々それぞれが負担されるということなんでしょうか。
- 事務局 市民訪問団の場合は、市内の方が個人で負担しております。市民訪問団

の場合は、一応市長の訪問団と別に市民訪問団というのを設置しております。各個人が費用を負担して行っている団体でございます。

- 読売新聞 最後に1点だけ済みません。
これは、市民訪問団の方というのは、お1人当たりの旅費は幾らになるんでしょうか。
- 事務局 市民訪問団の1人の旅行代金でございますが、31万3,000円でございます。
- 読売新聞 わかりました。ありがとうございました。
- 市長 ほかに。
- 読売新聞 読売新聞です。
今のに関連して、何点かお尋ねさせていただきたいんですが、議員さんも行かれるということですけど、これ議員さんの旅費は政務活動費からになるのか、それとも市費からになるのか、教えていただけますか。
- 事務局 議員訪問団のほうですが、費用といたしましては議員の旅費ということになります。議会事務局側の旅費ということになります。費用の合計が229万4,368円、1人当たり57万3,592円ということでございます。
- 読売新聞 市費ということでよろしいのですかね、政務活動費ではなくて、市費で行くということ。
- 事務局 議会側の旅費ということになります。
- 読売新聞 議会局の予算ということよろしい……
- 事務局 はい、議会局の予算ということになります。
- 読売新聞 昨今ですね、地方議員の方に対する風当たりの強さというのはあると思うんですが、これはその市費で行く、政務活動費ではなくて市費で行く必要性というのは、どのあたりにあるものでしょうか。
- 市長 姉妹都市というのは議会でもご議決をいただいて、姉妹都市を締結してきた経緯がございます。それを定期的にこの周年行事を実施していくことは、日常的にはなかなか私たち市民訪問団と一緒に同行するということではできませんけれども、数年に1回同行させていただいて、交流の状況を把握したり、あるいはトルーカ市との友好をさらに深めていこうということでございますので、これは行政のサイドも、議会も同意をした上で、姉妹

都市というのは結ばれているということもございますので、議会の議員さんたちにもそういった状況を把握をしていただくという目的もございますし、当然受け入れ側の議員の方々も参加されるということになりますので、お互いの市の議員同士の交流もそのときに行われるということにもなるということで、それなりの効果と申しますか、必要性はあると認識しております。

- 読売新聞 幹事社からは以上です。
各社さんお願いします。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。議題についてお伺いします。
先ほどですね、訪問される方で市訪問団が4名ということで、市長のほか3名の方がいるということですが、どういった立場の方がいらっしゃるのかというのをお伺いしたいのと、もう一点が市議の4名はどなたが行くのかというのを、それからその行く方はどういった選ばれ方をしたのかという、ちょっとその3点ですか、お伺いしたいんですが。
- 市長 具体的な役職については担当のほうから申し上げますが、議員訪問団については先般議会の中でご了承いただいたと認識しております。
- 事務局 市長訪問団の3名でございますが、市長のほか秘書課職員1名、観光政策部長1名、そして国際課職員1名となっております。
議員訪問団につきましては、市会議員3名と議会事務局職員が1名という内訳になっております。
- 埼玉新聞 市議の方の名前というのは、教えていただけないのですか。
- 事務局 市会議員の3名の方なんですけれど、武笠議員、そして小柳議員、高子議員の3名でございます。
- 埼玉新聞 済みません、この3名の方なんですけど、選ばれ方というのはどういう経緯でこの3名に決まったんでしょうか。
- 市長 その辺は議会で決めていただいたことですし、議会の中でその3名を派遣するというご議決をいただく形で決定をしたと私たちは認識しております。
- 埼玉新聞 あと、意見交換を現地でされるということですが、その内容でトルーカ市さいたま友好協会の設立についてというのがありましたが、これはこの訪問を契機に設立されるという理解でよろしいでしょうか。

- 市長 そういう方向で検討していこうということで、事前にお互いにどういったことを議題にするかということでお話をしておりますので、その中で上がってきた議題の一つでございます。最終的にどういう形で合意がされるかということはございますけれども、私たちとしては前向きに検討していきたいというと考えております。
- 毎日新聞 毎日新聞です。
- トルーカ市の訪問についてお伺いしたいんですが、市議会議員の訪問団4名という、この枠は市側から、予算の都合もあると思うんですけど、提示をされたのか、あるいは議会側から4名という枠で提示されたのかというのを、人数のその枠をお伺いしたいんですが。
- 事務局 人数の枠につきましては、議会事務局側で決めた人数でございます。
- 毎日新聞 4名出したいということで、それを市側が了としたということでいいんですか、予算の都合があると思うんで、最終的には市側がそれについて了しなければ通らないと思うんですが、そのあたりはいかがでしょうか。
- 事務局 まず、通常といたしまして予算で分かれているもので、議会事務局側の予算の旅費の範囲内において、今回4名という人数を議会側のほうで決められたものと私どものほうでは認識しております。
- 市長 ほかにございますか。
- 読売新聞 よろしいでしょうか。

幹事社質問：

①官製談合事件について

②さいたまクリテリウムについて

そうしましたら、幹事社の代表質問をさせていただきます。2点ございます。

1点目は、冒頭にございましたけれども、官製談合事件の関係でございます。先日、さいたま市が発注した公園遊具工事をめぐる官製談合事件で、昨日職員の1人が起訴されました。事件の詳しい概要については県警などの捜査経過を見守ることになるかと思うんですけども、現時点で組織として何を原因と考えるのか、また再発防止に向けてどういった対策をとっていく予定なのかということをお聞かせください。

2点目は、さいたまクリテリウムの関係でございます。クリテリウムの開催が明後日になりました。先日の会見で、協賛金などを増やすとともに支出を減らして市からの補助金はできるだけ少なくしたいといった内容の説明ございましたけれども、現在までの協賛金やオフィシャルサポーターズの状況、また当日の来場見込み数などについて教えてください。また、2回目の大会が迫っているということで、大会への意気込みを改めてお願いいたします。

以上です。

○ 市 長

それでは、幹事社の質問に順次お答えをしたいと思います。

まず、1点目の今回の官製談合の事件についてのご質問にお答えをしたいと思います。「現時点で組織として何を原因として考えるか」についてでございますが、事件の全容については警察の捜査を待たなければならないと思いますけれども、現時点では原因は大きく2点あると考えております。

まず1点目は、当該職員の公務に対する意識が余りにも低かったと言わざるを得ないと思っておりますし、組織として機能していなかったと考えるを得ない、こんな状況だったと思っております。

また、もう一つは、平成22年当時は施設修繕業務の契約に関しまして、現在のような詳細な手続が整備をされていなかったことも、結果として不正が行われた一因になったと考えております。

次に、再発防止に向けて、どういった対策を行う予定かということについてでございますが、まず第1点に挙げられますのは、職員一人一人のコンプライアンス意識向上の取り組みであります。現在、研修をはじめ積極的な取り組みを継続して展開しているところではございますが、さらに職員個人の意識向上とあわせまして、組織としてのリスク管理の強化についても検討してまいりたいと考えております。

まずは、契約制度一般のルール徹底と官製談合防止、コンプライアンスの徹底を図るための研修を管理職や技術職員、契約業務を担当する職員等を対象として、早急に実施することを指示しております。

また、施設修繕業務に関する契約制度の面につきましては、平成23年と平成25年に制度の見直しを行っておりますが、現行制度において同様

な不正行為を防ぐことができるのか検証を行う必要があると考えており、関係課に指示をしているところでございます。

次に、幹事社質問の2つ目でございます。さいたまクリテリウムについてのご質問にお答えをしたいと思います。

企業協賛金の状況につきましては、冠スポンサーであるベルーナ様をはじめ四十数社からご協賛をいただいております。おかげさまで総額1億8,000万円を超える見通しとなっております。オフィシャルサポーターにつきましては、昨日の段階で、法人サポーターが271口、個人プラチナが40口、個人Aが411口、個人Bが211口、合わせて大体3,200万円ほどとなっております。

プラチナと個人Aのアリーナ内観覧席に関するものについては、既に募集を終了いたしました。法人及び個人Bは、引き続き募集をしておりますので、今後も若干の伸びがあるのではないかと考えております。

また、加えてオフィシャルグッズの販売も開始をいたしております。公式サイトによるネットショップ、大宮そごう・コクーン新都心・浦和パルコ各ロフト、その他大会会場では、大会プログラム等を販売するなど、さらなる収入増を見込んでいるところです。市民の皆様には、オフィシャルグッズをご購入いただきまして、大会当日は、ぜひツール・ド・フランスのイメージカラーでありますツールイエローでコース沿道を盛り上げていただきたいと考えております。

また、来場者につきましては、昨年台風の影響による朝からの悪天候にもかかわらず、あれだけのたくさんの方がご観戦をいただきました。今年は、今のところ天気予報では台風の可能性というのは非常に少なく、また当日はメインアリーナにおいてコンサートも開催されることから、昨年以上の人出を見込んで警備計画を策定いたしております。警備員、ディレクター、アシスタントディレクター、市職員、その他スタッフで約1,000名の警備体制を組んで配置をしているところであります。

いずれにいたしましても、雑踏対策を中心に警察や消防といった関係機関等とも継続的に協議をしながら、できる限りの安全対策を講じてまいりたいと考えております。

主催者として、ご来場の多くのお客様の安全確保を第一に、埼玉県警察をはじめ、消防、施設管理者、救急医療機関、鉄道事業者など、関係機関及び団体と連携を密にして危機管理を徹底していくことはもちろん、有事の際は、全ての市民の皆様生命と財産を守ることが私の本来の使命であると考えておりますので、全力を尽くしていきたいと考えております。

また、現時点では、台風等については可能性は低くなっておりますけれども、災害対策本部が設置をされた場合には、私とその陣頭指揮をとることになりますので、状況によりましては、全市的な対応も視野に入れながら、震災や豪雨といった自然災害等、あらゆる危機管理についても遺漏のないよう準備を進めております。

ツール・ド・フランスは、100年以上の歴史を持つ大会であります。オリンピック、サッカーの世界カップとともに、世界3大メガスポートイベントの一つと言われているスポーツイベントであります。ツール・ド・フランスは、まさにフランスのイメージそのものであり、またフランス国民の誇りとも言えるものであります。レースを毎年楽しみに待つ国民の期待の高まりなど、国を挙げての一体感は、見る者にとって興奮と感動をもたらすものであろうと考えております。

そうしたツール・ド・フランスという冠のついた国際的な自転車レースを今回もさいたま市で開催をすることができたわけでありますので、今年は、昨年、運営面で少なからず課題や反省点などもございましたけれども、世界最高峰の自転車レース、ツール・ド・フランスの名を冠した大会の名にふさわしい大会にしたいと考えておりますし、またあわせて「スポーツのまちさいたま市」というものを全国に、また世界に発信をするいい機会であると考えておりますので、そういった意味で頑張っていきたいと思っております。

特にさいたま市では、今自転車のまちづくりを強力に推進をいたしております。この大会が自転車のまちづくりにおきましても、シンボルとなるような大会に育てていきたいと考えております。そのためにも、全国ネットでのテレビ放送、また世界100カ国以上におけるこういった映像の放映、ツール・ド・フランスというブランド名に恥じないような大会にすることはもちろんであります、大会開催に当たりまして多くの皆様にご理

解、ご協力をいただくとともに、来ていただいた方により一層の満足感を与えられるような大会にするべく、全力を尽くして、あと2日間ということになりますけれども、しっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

以上です。

- 読売新聞 ありがとうございます。

幹事社質問に関する質問

関連して2点、クリテリウムのほうについてお聞かせください。

1点目は、協賛金なんですけれども、四十数社で1.8億円ということで、それに対する数字の評価をお聞かせください。

それと来年のことなんですけれども、現時点でクリテリウムの開催についてASO社などと協議等は進んでいるのでしょうか。

この2点についてよろしくお願いします。

- 市長 まず、1点目の協賛金の額についての評価でございますが、昨年第1回目を開催させていただきまして、その実績と、あとその大会での評価が今回の協賛集めにいい影響をもたらしたと私たちは考えておりますが、多くの企業の皆様のご協力をいただけたということで、大変私たちとしてはありがたいと思っております。そして、目標を超えている数字でございますので、それなりに私たちとしてはよかったという評価をしているところであります。

来年についての協議については、まだこれからということになると思えますけれども、今回の大会を踏まえてまた検討していくということになると思えます。

- 読売新聞 ありがとうございます。

幹事社からは以上です。各社さんお願いします。

- 埼玉新聞 幹事社質問の最初の官製談合事件について伺います。

先ほど市長は、原因としては当該職員の職務に対する意識の低さと、それから組織としてのそういうことが起こらないような体制がしっかりしていなかったというようなことをおっしゃっていたと思うんですが、その2点のうち、主にどちらがより原因として強かったというふうにお感じになっていますでしょうか。

○ 市 長 その辺は、今後の裁判の経緯、あるいはこれから行ってまいります市の独自の調査というものを踏まえないと、どちらが主な原因かということは申し上げられませんけれども、1つはやはり私たちとしても、その後平成23年と25年だったでしょうか、こういったチェック機能を高めるためのいろんな改善をしてきた、改革をしてきたわけでありますけれども、ただ、やはりベースになるのは、まず一つは職員のコンプライアンスに対する意識の高まりが十分ないと、どんな制度をつくってもいろいろな抜け道が生まれる可能性はやっぱりあると思いますので、とにかく意識改革をしっかりしていくということが第一だろうと思っています。

また、それに加えて、やはり起こりにくい環境、システム、仕組み、こういったものをあわせてつくらないといけないと思っておりますので、現在改革をしてきた取り組みが今後機能していくのかどうかということについても、もう一度しっかりと検証していくことが必要だと認識しております。

○ 埼玉新聞 それでですね、今回の問題の前に、この事件とかなり密接にかかわることとして、2年前に不適切な事務処理問題があつて、そのさらに1年前に岩槻の環境センターの贈収賄があつてということで、やっぱり何年かに1回起きてしまっているというのは、私なんかは組織のあり方にやっぱり問題があるんじゃないかなと思わざるを得ないんですが、その点はいかがでしょうか。

○ 市 長 もちろん制度とか仕組みという部分で、これから検証していかなければいけないでしょうけれども、当然課題もあるとは思っておりますが、ただ、ちょうど先般の不適正事務については、その前に起こったそういった修繕のことについてやはり金額が大き過ぎて、もうちょっとチェック機能を厳重にしていこうという中で生まれてきたものでありますけれども、またその一方で、そのことをやったことによって、修繕って非常にスピーディーに対応していかななくてはいけないという側面がある中で細かい事務手続があつて、というような課題もあるものですから、私たちとしてはそういったことを十分踏まえながら、より良い改善、あるいは仕組みというものはどういうものかということについては、十分やっていかななくてはいけないとは思っておりますが、もう一方で、やはりそれを起こさないという意識

をしっかり持っていくということが、さらに重要なことであると思っております。

○ 埼玉新聞

もう一点なんですけれども、今回の談合ということで、恐らくちゃんとした手続を踏んで発注したものより高い額で落札されていた可能性があるということ、それからあと今回は架空工事だったということが言われています。そういう意味で、市民の税金が無駄に使われてしまったという部分があって、それからこれを受けて今回内部調査を始めています。その内部調査をするのに、特別の補正予算つけたりとかというのはないというのは伺っているんですが、ただ、通常の業務以外に、そういった調査でお仕事が増えてしまうということで、市の職員の方の負担が増えて、ひいては例えば残業代が増えたりとかということで、結局ですね、そういった意味で市の財政に返ってくると、前回の不適正な事務処理のときも第三者委員会つくったり、各部局で調査委員会をつくったりして、そういうときも大分やっぱり残業が増えてしまったという話を聞いています。そういう意味で、こういうものが起きると、起こしたことで市民の大切な税金が無駄に使われてくるという部分があって、もう一つその調査をすることで、さらにそういうお金が使われてしまっているというところがあると思うんですが、その点に対して、市長は市民に対してどのように思っていらっしゃいますでしょうか。

○ 市長

今のご指摘は、まさにそのとおりだと思います。

そういう意味では、本当にこういった事件が起こるということで、多くのコストをかけるということになるろうかと思っております。

ですから、それだけやっぱり日々の業務、仕事をしっかりやっていくということが大切であり、その中で仕組みがきちんと機能していくということが重要であろうと思っておりますが、一応そういう形で日々行っているつもりでありますけれども、そうでなかったというケースがいろいろ今回のような形で出てきていますので、やはり日々の業務をより一層、しっかりやっていただく、事務の適正化ということを、あるいはコンプライアンスということ意識して日々仕事をしていくということをしっかりしてやっていかないと、こうした大きなコストをまたかけることにつながっていくと思っております。大変申しわけない思いでいっぱいです。

- 読売新聞 読売新聞です。
- 官製談合の件で1点聞かせてください。今埼玉新聞さんからもありましたが、今回は、いわゆる予算が執行されながらですね、修繕が行われていなかったという点が警察の捜査なんかでも言われているところですけど、そのことについてですね、その不正について当時の容疑者の職場ではですね、その事実をどのように把握していたのかというところをですね、市長はどのように現時点で把握されていらっしゃるのか、教えていただけますか。
- 市長 現時点では、まだ十分に把握ができていない状況ではございませんので、今後しっかりと調査をしていきたいと考えておりますが、やはり執行されるべき事業がなされていないということは、これはもう大変なことで、これは本当に市民の信頼を損なう、あつてはならないことだと思っております。そういったことが起こったということについては本当に私たちは重大なことだと思っておりますから、そこらについてはしっかりと調査をして、その上で対応、あるいは再発防止策をしっかりと考えていきたいと思いません。
- 読売新聞 関連してなんですけど、容疑者1人で全てやったというのと、もしくは上司なり同僚なりに報告していたということで、またその意味合いは違ってくると思うのです。個人によるものなのか、言ってみれば課ぐるみ、事務所ぐるみで隠していたのかというような可能性もあるかと思うんですが、その点について現時点でどのようにお考えでしょうか。
- 市長 現時点では、まだ必ずしも十分に調査ができていない状況ではありますので、捜査の状況、あるいは私たちとしてもしっかりと調査をしていくつもりですので、その中で判断していくというか、明らかにしていくということになると思います。
- 朝日新聞 朝日新聞です。
- 官製談合についてなんですけども、当該職員のですよね、処分についてなんですが、どのようなスケジュールで今後進んでいくのか、ちょっと教えてください。
- 市長 現在まだ、今後、今回起訴はされたということでございますけれども、裁判の状況なども踏まえながら、適切な時期に適切な処分をしっかりとし

ていきたいと思っております。

現時点では、まだどのタイミングでとは、ちょっと申し上げられません。

○ 毎日新聞

毎日新聞です。

官製談合に関して伺いたいのですが、先ほど市長もおっしゃっていただきましたが、この逮捕された職員以外で、その事件の当時、周りの職員ほどの程度かかわっていたかとか、この施工されていなかったということはどうしてこれまで気づくことができなかつたかなどということは、市独自に調査する必要があると思うんですが、そういった調査はいつごろまでに、こういった形で行う予定かというのを教えてください。

○ 市長

そういったことの調査についてもできるだけ早くやっていきたいと思っておりますが、関係書類とかいろいろな事件の状況などもございますので、そういった状況も踏まえてしっかりと調査をしていきたいと思っております。

具体的にいつごろというところまでは、現時点では申し上げられませんけれども、当然皆さんが思っているような疑問等についても、しっかり調査をしなくてはいけないことだろうと思っております。

○ 毎日新聞

次回の12月議会では、当然そういったことも問題になるかと思いますが、それまでに何も調査がまとまっていないということでは、とても耐えられるものではないと思うのですが、その前までには何とか調査をまとめるというような意向もないですか。

○ 市長

私たちとしては、できるだけ早くいろんなことについて調査をしていきたいと思っておりますが、警察のほうの関係であったり、あるいは裁判の関係などもございますので、そういったことを十分状況を踏まえながらやっていきたいと思っております。

○ 朝日新聞

朝日新聞です。

今回架空の工事ということで、お金は業者のほうに払われて工事がされていないということなんですが、その工事代金のほうを業者のほうに返還を求めるとか、そういうお考えはおありでしょうか。

○ 市長

状況についてしっかりと調査をするということが前提になると思いますが、架空であった場合には当然返還をしていただくということになると思います。

○日本経済新聞 日本経済新聞です。

さいたまクリテリウムの関連でお伺いします。先ほど幹事社の質問にもありましたけれども、来年の開催について今回の大会を踏まえて検討したいということでしたけれども、来年以降も市長としては継続して開催していきたいという気持ちをお持ちなのかということを確認させてください。

○市 長 できれば継続的に開催することで、いろいろなノウハウが蓄積されてきたり、あるいは多くの皆さんにご協力あるいはご理解を広げていくことができると考えております。

また、自転車のまちづくりのシンボリックなイベントにもしていきたいという思いもありますので、私個人の思いとしては、継続をしていきたいという思いはございます。

○日本経済新聞 もう一点なんですけれども、来場者の見込みについて、昨年以上の人出を見込んでいるということでしたけれども、経済効果に関しても昨年以上を見込まれているのかという点と、あと昨年はちょっと地元の企業への恩恵が少なかったのではないのかという指摘がありましたけれども、今年はそういう懸念というのはないのかという点についてお伺いします。

○市 長 経済効果については、当然来場者が増えれば経済効果は高まるということですが、その高まる人が地元からの方々なのか外から来た方々なのかで若干その波及効果には違いが出てくるかと思っておりますけれども、いずれにしても昨年より多くの人に来ていただければ、当然それ以上の経済効果になると思っております。

それから、地元への経済波及効果については、できるだけ地元の企業に参画をいただいたり、あるいはちょうど今同じ時期に商店街の活性化キャンペーンをやっておりますので、そういった商店街のキャンペーンと連動させていただいたり等々、前回以上に工夫をして、できるだけ来ていただいた方に地元で買い物をしていただいたり、あるいは市民の皆さんに地元の商店街を使っていただくというような意識を高める機会にもあわせてしていきたいと思っておりますので、昨年以上にそういったことにも取り組んでいるというところでございます。

○テレビ埼玉 テレビ埼玉です。

官製談合の話にまた戻ってしまうんですけれども、調査を内部で行うと

ということなのですが、今後外部も交えた調査というのは行っていくのか、検討されているのかということについて教えてください。

○ 市 長 現時点でまず内部調査をしっかりやると考えております。また、その状況によっては第三者委員会というようなものも必要になるのではないかと考えておりますが、まず内部調査をしっかりやっていきたいと考えておりますし、あわせてそういったことについて、第三者の委員会等についても今後検討していくということになると思います。

○テレビ埼玉 調査によってということなんですけれども、第三者委員会を設置するとした場合、調査でどういう結果が出た場合は設置になるのでしょうか。既にもう起訴されていますし、外部調査は必要なのではないかと感じるんですけれども、その調査の中でさらにまた新たに新しい事実が発覚した場合なのか、それとももう現段階で視野に入れているのかどうか、教えてください。

○ 市 長 新たな事実が出てきた場合ということに特定しているつもりはありません。現時点の状況の中でも、第三者の視点が必要であると判断すれば、そういった委員会を設置すべきだと思っております。

○テレビ埼玉 その判断というのは、いつどの段階で判断するのでしょうか。

○ 市 長 1つは、まず内部調査をしっかりさせていただいて、その上で、内輪だけですと、客観性とか公平性ということが担保されない部分もあろうかと思っておりますので、そういったことも含めて、どうしたらいいかということについてはあわせて今考えているところであります。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。

先ほどのクリテリウムの話に戻るんですけれども、地元への波及ということで、商店街キャンペーンと連動して行っているということだったんですけど、具体的に商店街とどのような連動を行っているのでしょうか。

○ 市 長 1つは、バナーとか旗ですか、そういったものを掲示していただいたり、ちょうど今さいたま市の商店活性化キャンペーンということで最近毎年やっております。ご購入いただくと、買った金額に応じて、券というかスタラッチカード、そういったもの(応募はがき)がもらえますので、それを持っていくと(投函すると)、(会見後修正)例えば今回は1等はフランスのペア旅行であったりとか、ツール・ド・フランスとかフランスとかというこ

とを少し意識したものにさせていただいて、一緒に盛り上げていこうということでやらせていただいたりしております。

○ 埼玉新聞 それがクリテリウムとどういうふうに絡むのかというのが知りたかったんですけども。

○ 市 長 クリテリウムという大会を通じてたくさんの人に来ていただく機会ができますので、自転車というイベントに対して、あるいはフランスという国に対して、あるいはたくさんの来街者が来るということに対して一つのインセンティブになるようにということで、来街してくださった方が積極的に市内での購買につながっていくようにという思いでやらせていただいております。またあわせて、市内在住の方に対しても、地元の商店街での購買ということについて相乗効果が生まれるだろうということでやらせていただいているところでございます。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。

クリテリウムに関してお伺いしたいんですが、先ほど市長のほうから発表されましたサポーターの数なんですが、たしか募集をかけた人数というか口数にまだ届いていないものがほとんどだと思うんですが、これは苦戦しているという理解でよろしいのでしょうか。

○ 市 長 目標に対しては、まだ目標に行っていないということだろうと思えますけれども、総額的には、金額的にはもう昨年以上には行っているんですよ。ただ、目標までは行っていないということであったり、あるいは昨年サポーターだった方が今回協賛のほうに回ってくださったりというようなケースもございますので、必ずしも苦戦という表現が適切ではないかなと思っております。ただ、私たちとしてできるだけ税金を使っての補助というのを少なくしたいという思いがありますので、そういったものもご理解をいただきながら、協力をいただける企業さんあるいは個人の方々を増やしていきたい、また一緒に盛り上げていただきたいと、こんな思いで進めております。

○ 埼玉新聞 ただ、見込みよりは少なくなっているということなんですが、その見込みより少なくなっている現時点ではどういうふうに分析されていますでしょうか。

○ 市 長 もう少し努力が必要かなとは思っております。目標を立てた以上、でき

る限り目標に達するように努力をしていかなければいけないと思っておりますので、特に法人サポーターと個人のBのほうのサポーターについてはまだまだ努力が足りないのかなと思っておりますので、もう少し時間がございまして、しっかりやっていきたいと思っております。

○ 朝日新聞

朝日新聞です。

クリテリウムについてなんですが、去年は20万人の来場者があったという公式発表なんですけど、先日の市議会の委員会とかでも、その数え方が曖昧なんじゃないかという批判もあつたりしたんですけども、今年の主催者発表の人数のやり方というのは去年と同じやり方で行うんでしょうか。

○ 市長

今回は、完全に正確な数というのは、屋外のイベントですから、計測するのはほとんど不可能だと思いますけれども、より精度を増していくための調査みたいな形でやらせていただいて、その上で発表させていただくという形をとらせていただければと私たちは思っております。

○ 朝日新聞

あと、昨年台風が来ていて20万人で、ことしは天気予報を見ると結構晴れる可能性が高いということで、昨年以上を見込んでおられると思うんですが、大体何人ぐらいとか、30万人なのか25万人なのかとか、警備計画上は何万人とされているのかを知りたいんですけど。

○ 市長

現時点では、細かい数字で申し上げると少し誤解を招いたりもしますので、いずれにしても今お話のあつたとおり、天気が恐らく曇りないし晴れという予報が出ておりますので、昨年以上の人出になるということが予想されますし、また今非常に自転車については人気が高まっているということもありますので、そういったことに対応できるようなキャパシティを十分確保して警備計画を練っているということでございます。

○ 朝日新聞

あと1点なんですが、去年の20万人とされた来場者のうちで、その後の分析、実行委員会とかに提出された資料で、6割5分ぐらいが県内からの方だったと思うんですけど、市長としてはもっと県外の方に来てもらいたいというお考えなのか、それについてはどういうことが必要で、どういう施策を行ったとお考えなのか教えてください。

○ 市長

もちろん1つはさいたま市民の皆さんに楽しんでもらいたいというのがまず基本中の基本だろうと思っておりますので、市民の皆さんにたくさん来ていただきたいとは思っております。ただ、県外から来ていただく方々

の割合としては30%を超え、35%ぐらいというのは、ある意味では、全体のボリュームは別としますと、かなり適正な数というのでしょうか、バランスは非常に良いのではないかなとは思っております。

ただ、多くの市民の皆さんに理解をいただいて、また見ていただいて、あるいは一緒に参画をいただいて大会を盛り上げていただくということは必要だと思っておりますので、今回も前回以上に給食など、小学校、中学校、あるいは保育園で実施をしていただいたり、あるいは保育園の生徒さんにはポスターというか、絵を描いていただいたり、いろんな地道な取り組みをやらせていただいたり、あるいは昨年以上にフラッグだとか、そういうのも掲示をさせていただいたり、あるいはポスターもかなり広範囲にわたって張らせていただいているということがあるかと思っておりますけれども、できるだけ多くの皆さんに知っていただく、ご理解いただく、また参加いただく、基本は市民の皆さんに知っていただいて、盛り上げていただく大会にしたいと思っております。

ただ、ある一定の割合については、経済の活性化ということも考えておりますので、35%ぐらいは市外から来ていただくと、地域の活性化という意味では非常に良いのではないかと思います。

○ 朝日新聞 一つの効果として、全国と世界に埼玉というものを発信されるという効果が期待されるとおっしゃっている。宇都宮のジャパンカップなどは大体7割ぐらいが県外から来ているというんですけど、35%というのが一つの目安となるんですか。

○ 市長 適正な割合がどのくらいかというのは、現時点では私たちもこの割合がベストだというのは持っていません。

ただ、このイベント自体、1つは世界に発信をしていきたい、あるいは全国から多くの人にさいたま市の魅力を理解してもらいたいという思いもあるし、かつ市の税金でやっておりますから、市民の皆さんにもご理解いただく、あるいは見ていただきたいという思いも大変強く持っておりますので、そういう意味ではその辺のバランス、どの辺が一番適しているのかというのは今後検討というか、目標値として考えていきたいとは思っておりますが、現時点では、全体が約20万人ということの中で35%が県外からという部分で言うと、そんなに悪い数字ではないとは思っております

が、なかなか難しいですね。何%がベストなのかというところまではまたちょっと議論しておりませんが、多分目的の置き方によって若干違ってくるとは思いますけれども。

- 読売新聞 それでは、そのほかに質問のある方は質問してください。

その他質問：安倍内閣の女性閣僚の辞任についての感想は

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。

先日安倍内閣の女性閣僚が同じ日に2人辞任されました。政治資金規制法ですとか公職選挙法が疑われるような疑惑があって辞職されたということなのですが、女性の活躍というのは今日本国内すごく期待されていて、さいたま市でもその辺は期待していろいろな施策をしていると思うんですが、今回の辞任についてどのような感想をお持ちでしょうか。

- 市長 そういう意味では、今日本全体が女性の活躍の場を増やしていこうということであったり、あるいは女性の力をもっともっと社会の中に活かしていこうという、そういう思いというか、状況がある中で、今回非常に期待された2人の女性大臣が辞職をされるということについては本当に残念な気がします。

女性が社会進出していく上では、理想形というか、女性のいわゆるロールモデルというのでしょうか、そういった方々がまだまだ必要ではないかと思っておりますので、その中で活躍をされる女性が社会の中でクローズアップをされ、そしてまたそれを見て、社会に進出をしよう、自分の役割を果たしていこう、自分の能力をもっと社会に活かしていこうというような思いを持っていただける女性が増えることが望ましいと思っておりますので、そういう意味では大変残念な結果であったと思っております。

ただ、後任の上川大臣につきましても女性ということですので、多くの皆さんが期待を持って見ていらっしゃると思いますので、大いに上川大臣のお力を発揮していただきたい。議員立法等をつくられた大変能力のある方だと思いますので、期待をしたいと思っております。

- 埼玉新聞 今回の問題なんですけど、政治家として疑惑を持たれてはいけない行為があったということと、あと今回疑惑が出た2人の大臣が女性だったとい

うことで、そこがちょっと違った意味で結びつけられてしまって、女性の社会進出に水を差してしまうんじゃないかという懸念もあるのかなと思うんですが、その点はいかがお考えでしょうか。

○ 市長 政治家は男性だろうが女性だろうが、政治家として説明責任を果たすべきということについては、これは当然のことだろうと思っております。ただ、もう一方でこれからというときだっただけに残念な思いを持っている方々は多いのではないかと思います。

○ 読売新聞 そのほかよろしいでしょうか。
どうもありがとうございました。

以上をもちまして、本日の記者からの質問を終了させていただきます。

○ 進行 以上をもちまして、市長定例記者会見を終了させていただきます。
次回の開催は11月6日木曜日13時半からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。

午後2時29分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。